

平成30年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

アカデミックで自由闊達な校風のもと、文武両道の実践を通じて、知・徳・体のバランスがとれ、豊かな人間性と心身のたくましさを備えた生徒、さらには、高い志とチャレンジ精神によって自らの進路を切り開き、社会貢献を行う努力を惜しまない生徒を育成する。また、グローバル化が急速に進む中で、社会の課題に関心をもち、国際社会のリーダーとしてふさわしい次のような能力や態度を育む。

- ・多角的な視点を持ち、ものごとを洞察する力、
- ・主体的に課題を解決しようとする態度、
- ・コミュニケーション能力、
- ・自己を確立するとともに、互いの違いを認め合い尊重しようとする態度

以上の「育てたい生徒像」をベースにして、「北野生の『凄さ』を『見せる』学校づくり」に オール北野 で取り組む。

2 中期的目標

1 高い学力の育成

教員、生徒がともに真摯に学ぶ環境を追求し、高度な知識と教育スキルを兼ね備えた教員集団を確立するとともに、授業を通じて生徒が学問に対する興味・関心を高め、自ら主体的に学び、さらに高度な学びに向かってチャレンジしていく意欲を高める。生徒に育成すべき資質・能力として、生きて働く「知識・技能」、未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」、学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性等」を常に意識して取り組む。

(1) アカデミックな授業 ～北野生の「凄さ」が「見える」授業づくり～

教員の専門的知識及び教育スキルの向上を図るため、授業改善を進める。授業においては言語活動を重視するとともに、ICTをより効果的に活用できるよう取り組む。学習指導要領改訂の趣旨を踏まえ、「主体的・対話的で深い学び」の実現と観点別学習状況の評価に意を用いるものとする。

- ア 授業に係る研修機会や授業相互参観等の充実を図り、教職員の授業スキルの一層の向上を図る。 イ 教員の専門的知識を研鑽する機会の充実を図る。
- ※ 学校教育自己診断（教職員向け）「教科指導について、教職員と日常的によく話し合っている」の肯定的評価が2020年度実績で90%以上（29年度実績85.7%）
 - ※ 学校教育自己診断（生徒向け）「教え方にさまざまな工夫をしている先生が多い」の肯定的評価が2020年度実績で85%以上（29年度実績80.9%）
 - ※ 学校教育自己診断（生徒向け）「授業などでコンピュータやプロジェクタ、電子黒板を活用している」の肯定的評価が2020年度実績で95%以上を維持（29年度実績96.1%）
 - ※ 学校教育自己診断（生徒向け）「授業は興味深く満足できるものである」の肯定的評価が2020年度実績で90%以上（29年度実績82.8%） *指標見直し(↑)

(2) 主体的に学ぶ意欲・態度の育成

- ア 生徒が自学自習を進めやすくなるような方策を検討し、合わせて適切なアドバイス等を行う。 イ 生徒の自己実現、進路目標設定のためのキャリア教育の充実を図る。
- ※ 生活アンケート（生徒向け）により把握する「平日の一日平均自主学習時間」が「2時間以上」と回答する生徒の割合を2020年度実績で50%以上（29年度実績46.5%）、「3時間以上」と回答する生徒の割合を同30%以上（29年度実績25.2%） *指標見直し(↓)
 - ※ 生活アンケート（生徒向け）により把握する「休日の一日平均自主学習時間」が「4時間以上」と回答する生徒の割合を2020年度実績で45%以上（29年度実績40.4%）、「5時間以上」と回答する生徒の割合を同35%以上（29年度実績28.6%） *指標見直し(↓)
 - ※ ①「知的世界の冒険」、②「職業ガイダンス」、③「学部・学科ガイダンス」各々の生徒アンケートにおける肯定的評価を2020年度実績で各々95%以上を維持する。（①29年度実績87.3%、②29年度実績99.0%、③29年度実績95.5%）
 - ※ 学校教育自己診断（生徒向け）「学校は進路についての情報を知らせてくれる」の肯定的評価を2020年度で90%以上（29年度実績88.9%）
 - ※ 生徒進路希望現役実現率（3年第2回11月進路希望調査の第一志望校の現役合格率）が2020年度実績で50%以上（29年度実績44.2%）（28年度実績38.8%） *指標見直し(↓)

2 豊かな人間性と心身のたくましさの育成

本校のあらゆる学習活動、学校行事、部活動やその他の課外活動等を通じて、互いの違いを認め合いつつ協力し、切磋琢磨する中で、高い志を持って何事にもチャレンジしていく心身を育成する。

(1) 学校行事・部活動・課外活動

- ア 学校行事や部活動において、生徒がその力を十分に発揮できるよう組織的に支援していく。
- イ 各種コンクール、コンテストや課外での行事等への積極的参加を働きかけていく。
- ※ 学校教育自己診断（生徒向け）「文化的行事（体育行事）に楽しく参加している」の肯定的評価の平均値が2020年度実績で90%以上（29年度実績89.6%）
 - ※ 生活アンケート（生徒向け）における「部・同好会加入率」が2020年度実績で92%以上を維持（29年度実績94.9%）
 - ※ 全国レベル、近畿レベルのコンクールやコンテスト、競技大会等への参加者数について、2020年度実績を維持（28年度実績22人4団体、29年度45人9団体）

(2) 人権教育・教育相談の充実

- ア 「人権が尊重された教育活動」を根底にすえて、すべての教育活動において、「自分を大切にし、他者を大切にし、その中で自分も大切にされる」集団づくりを進めていく。
- イ 生徒や保護者に対するきめ細やかな教育相談ができるよう、情報の共有や体制づくりを一層進める。
- ※ 学校教育自己診断（生徒向け）「悩みや相談に親身になって応じてくれる先生が多い」の肯定的評価が2020年度実績で80%以上（29年度実績79.4%）
 - ※ 「担任以外にも保健室や相談室等で気軽に相談することができる」の肯定的評価が2020年度実績で60%以上（29年度実績50.4%）
 - ※ 学校教育自己診断（生徒向け）「人権の大切さについて学ぶ機会が多い」の肯定的評価が2020年度実績で75%以上（29年度実績58.8%）。
 - ※ 学校教育自己診断（教職員向け）「すべての教育活動において、人権を尊重する姿勢で指導が行われている」の肯定的評価が2020年度実績で80%以上（29年度実績62.5%）

3 次代のグローバル・リーダーの育成

国際的な視野を育むとともに、グローバルな社会課題を多角的に学び、積極的にその解決策を提言できる生徒を育成するため、海外や大学との連携、またSGH(Super Global High School)等の取組の充実を図る。英語の4技能をバランスよく育成して、英語によるコミュニケーション能力のさらなる伸長を図る。

(1) コミュニケーション力、議論する力、プレゼンテーション力の育成

- ア 授業を中心とするさまざまな学習活動の中で、自分の考えをまとめ表現できる力、相手の主張を理解し自分の意見を交えてしっかりと議論ができる力を育成する。
- ※ 学校教育自己診断（生徒向け）「授業で自分の考えをまとめたり、発表する機会がよくある」の肯定的評価が2020年度実績で80%以上（29年度実績76.0%）。 *指標見直し(↑)

(2) 海外の機関との連携、高大連携の充実

- ア 高大連携を通じて、国際的な視点で大学の研究の最先端に触れ、国際的な社会課題への関心や、その課題解決に向けた意欲を高める。
- イ 海外の大学や高校と連携し、アジアからの留学生との交流や留学生の支援を得る機会を充実させる中で、異なる文化や社会への理解を深め、国際的な視野を広げる。
- ※ 学校教育自己診断（生徒向け）「国際理解や世界情勢について学ぶ機会がよくある」の肯定的評価が2020年度実績で75%以上（29年度実績69.9%）
 - ※ 学校教育自己診断（生徒向け）「本校で海外からの高校生との交流会、学内留学、海外研修、留学生とのディスカッション等、英語を使って海外の人と交流したり学んだりする機会に参加したことがある」の2020年度実績が65%以上（29年度実績61.0%）
 - ※ 学校教育自己診断（生徒向け）「国際的な社会課題や政治の動きに関心がある」の肯定的評価が2020年度実績で80%以上（29年度実績66.0%）
- 以上のすべての活動を通じて、生徒の学校満足度を高める。
- ※ 学校教育自己診断（生徒向け）「北野高校に来てよかったと思う」の肯定的評価が2020年度実績で90%以上（29年度実績88.9%）

4 【課題研究】以下のテーマを掲げ、課題研究（校内研究）に取り組む。 *PT（プロジェクトチーム）、WT（ワーキングチーム）

(1) 校内研修の活性化を通じた教職員の力量形成

1 (1)に掲げた授業改善を主テーマとした校内研修、首席、指導教諭を中心とした初任期教員（1～概ね3年目）に対する力量形成支援、教育Cのリーダー研修、10年経験者研修、アドバンスセミナー等の校内への成果還元等を通して、教職員同士が学び合う機会を多く創出するとともに、教職員の力量形成における、多様な「カリキュラム・リーダーシップ」のあり方について実践的な研究を進める。

(2) 「知」の継承・発展 *本項の取組には、校内（GLHS；グローバルリーダーズハイスクール）PT、および、WTが分掌、学年と連携して携わる。

- ア 現在の教職員がいっまでも本校に在籍するわけではないことを前提に、これまで蓄積されてきた「経験知」を次世代に計画的に継承する仕組みと仕掛けについて研究する。
- イ 蓄積されてきた「経験知」を複合的に活用して教育界喫緊の課題に先進的に取り組む。具体的には以下の2点について、平成31年度までの早い時期に指針を示す。
- ①高校教育、大学教育、入学者選抜の一体的改革の動向と今次の学習指導要領改訂の趣旨を踏まえ、進路部と教務部が連携協働して、北野高校独自のAP（アドミッション・ポリシー）、CP（カリキュラム・ポリシー）、DP（ディプロマ・ポリシー）を定め、その上で、「入口（入学）から出口（卒業、進学）まで、そして未来（キャリア）へ」と一貫した北野生の「育成スタンダード」（仮称）を策定する。
 - ②学校を取り巻くデータのリサーチ（IR）とそれを活かした広報戦略を経営課題の中核の一つに据え、これに経常的に取り組む校内組織のあり方について研究する。

(3) 「部活動休養日（ノークラブデー）の有効活用 *本項の取組には、校内（GLHS）PT、および、WTが分掌、学年と連携して携わる。

平成29年度からの部活動休養日（ノークラブデー）の設定を、文武両道を真に実現する絶好機と捉え、制度を安定的に定着させつつ、それを学習時間の増加や生徒のアウトリーチ活動（校外発表活動、ボランティア、地域・社会貢献）の充実につなげられるよう実践研究を進める。なお、国・府の働き方改革の議論の動向を注視する。

*休養日の使い方を部活単位で生徒に考えさせ、主体的・計画的な学習やアウトリーチ活動を計画実践させる。（主に副顧問がアドバイザーに就く）

*アウトリーチ活動は、例えば、地域美化活動、小中への出前チューター（生徒による学習支援）、地域のお年寄りとの交流などに部活単位で取り組むことを想定。年1～2回。

(4) 学習環境のさらなる充実

- ア 指導部と保健体育部が中心となって生徒に働きかけを行い、生徒の主体的な実践を通して清々しく過ごせる学習環境の創出・充実に取り組む。
- *<指導部>生徒が自らよき生活習慣、生活規範を確立することにより、学習・部活動、その他の活動に健康的にバランスよく取り組み、充実したものになるように、HRやその他の機会を捉えて啓発活動を行う。また、SNS上でのいじめやトラブルの生起を踏まえ、情報リテラシーの育成にも取り組む。
 - *<保健体育部>生徒保健委員会等の生徒主体の活動を尊重し、望ましい学習環境を自らの行動によって支える意識を高め、すべての生徒が進んで美化活動等の環境整備に取り組むことができるよう支援を行う。また、防災教育の取組を引き続き進める。
- イ 「北野らしい」授業の継続のため、予算の効果的・効率的な執行に努める。また、老朽化してくる教材機器・設備の更新を計画的に実施することを検討する。あわせて、学校のもう一つの「顔」とも言える、トイレ等、生活環境改善の可能性を探る。
- ※ (1)～(4)については、各年度計画において適切な取組指標を定め、段階的に実績を積み重ねたうえで、各年度末に研究成果を明らかにする。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成 年 月実施分]	学校運営協議会からの意見
----------------------------	--------------

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 高い学力の育成	<p>(1) アカデミックな授業 ～北野生の「凄さ」が「見える」授業づくり～</p> <p>ア 教職員の授業スキルの向上</p> <p>イ 研鑽機会の充実</p> <p>(2) 主体的に学ぶ意欲・態度の育成</p> <p>ア 自学自習の推進</p> <p>イ キャリア教育の充実</p>	<p>(1) ア</p> <ul style="list-style-type: none"> 校内での授業公開週間を例年通り2回実施 公開研究授業の実施 他校の初任者等教員との授業力向上研修の実施 校内の教員相互の授業見学を実施。 授業、評価等に係る教員研修の開催 <p>(1) イ</p> <ul style="list-style-type: none"> 他校や校外における授業研修等への参加者を増やす。 研修等への参加者との間で研修内容等の共有化を図る仕組みをつくる。 教員の専門的知識を研鑽する機会のあり方について検討する。 <p>(2) ア</p> <ul style="list-style-type: none"> 授業を通じて教科・科目の学習への興味・関心を高める努力をさらに進める。 自学自習の推進方策についての検討を深める。(1年:宿題考査の廃止～教科オリエンテーションの充実、全:学習習慣の定着) 図書館の設備や資料の活用を働きかけ、生徒の自主的、自発的な読書活動や学習活動の充実を支援していく。 <p>(2) イ</p> <ul style="list-style-type: none"> 「知的世界の冒険」「職業ガイダンス」「学部・学科ガイダンス」の実施 進路目標の早期設定に向けた取組の充実 	<p>(1) ア、イ</p> <ul style="list-style-type: none"> 相互授業見学を実施した教員の割合92%以上(29年度実績90.0%)。 学校教育自己診断(教職員向け)(以下「教職員自己診断」)「教科指導について、教職員で日常的によく話し合っている」の肯定的評価が87%以上(29年度実績85.7%)。 教職員自己診断「評価とその方法について、教職員で日常的によく話し合っている」の肯定的評価が70%以上(29年度実績65.0%)。 学校教育自己診断(生徒向け)(以下「生徒自己診断」)「教え方にさまざまな工夫をしている先生が多い」の肯定的評価が85%以上(29年度実績80.9%)。 生徒自己診断「授業などでコンピュータやプロジェクト、電子黒板を活用している」の肯定的評価95%以上を維持(29年度実績96.1%)。 生徒自己診断「授業は興味深く満足できるものである。」の肯定的評価が85%以上(29年度実績82.8%)。 <p>(2) ア</p> <ul style="list-style-type: none"> 生活アンケートの「平日の一日平均自主学習時間」が「2時間以上」を48%以上(29年度実績46.5%)、「3時間以上」を27%以上(29年度実績25.2%)。 生活アンケートの「休日の一日平均自主学習時間」が「4時間以上」を42%以上(29年度実績40.4%)、「5時間以上」を同31%以上(29年度実績28.6%)。 図書館の働きかけを通して、貸出冊数(29年度実績3,850冊)や授業での使用が増えるかどうか、データを取って検証する。 <p>(2) イ</p> <ul style="list-style-type: none"> 「知的世界の冒険」、「職業ガイダンス」、「学部・学科ガイダンス」各々の肯定的評価95%以上を維持(29年度実績は87.3%、99.0%、95.5%)。 生徒自己診断「学校は進路についての情報を知らせてくれる」の肯定的評価が90%以上(29年度実績88.9%)。 進路希望現役実現率が45%以上(29年度実績44.2%)とする。 	
2 豊かな人間性と心身のたくましさの育成	<p>(1) 学校行事・部活動・課外活動</p> <p>ア 学校行事や部活動</p> <p>イ 各種コンクール等への参加</p> <p>(2) 人権教育・教育相談の充実</p> <p>ア 人権基礎教育推進</p> <p>イ 教育相談の充実</p>	<p>(1) ア</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校行事が生徒にとってより魅力的なものになるように不断の改善を図る。 <p>(1) イ</p> <ul style="list-style-type: none"> 生徒が課外への活動に積極的にチャレンジしていくよう、情報提供等を含め、働きかけを活発にする。 <p>(2) ア</p> <ul style="list-style-type: none"> 本校における人権教育の体系化を図る。 教職員の人権意識をさらに高めるための研修機会等について検討する。 <p>(2) イ</p> <ul style="list-style-type: none"> 生徒の状況についての共有化を一層図る。 SCとの連携やケース会議の充実、関係機関との連携を一層図っていく。 教育相談にかかる校内体制づくりを推進する。 	<p>(1) ア、イ</p> <ul style="list-style-type: none"> 生徒自己診断「文化的行事(体育行事)には楽しく参加している」の肯定的評価の平均値が90%以上(29年度実績89.6%)。 生活アンケート(生徒向け)における「部・同好会加入率」92%以上を維持(29年度実績94.9%) 全国レベル、近畿レベルのコンクールやコンテスト、競技大会等への参加者数が平成29年度実績を維持(平成29年度実績45人9団体)。 <p>(2) ア、イ</p> <ul style="list-style-type: none"> 生徒自己診断「悩みや相談に親身になって応じてくれる先生が多い」の肯定的評価が80%以上(29年度実績79.4%)、「担任以外にも保健室や相談室等で気軽に相談することができる」の肯定的評価が55%以上(同50.4%)。 生徒自己診断「人権の大切さについて学ぶ機会が多い」の肯定的評価が65%以上(29年度実績58.8%)。 教職員自己診断「すべての教育活動において、生徒の人権を尊重する姿勢で指導が行われている」の肯定的評価が70%以上(29年度実績62.5%)。 	
3 次代のグローバル・リーダーの育成	<p>(1) コミュニケーション力、議論する力、プレゼンテーション力の育成</p> <p>ア 議論できる力等の育成</p> <p>(2) 海外の機関や大学との連携</p> <p>ア 高大連携</p> <p>イ 海外との連携</p>	<p>(1) ア</p> <ul style="list-style-type: none"> 「課題研究」「学内留学」「国際情報」「海外研修」等を中心に、英語を含めて、ディベート(即興型)やプレゼンテーション等の学習と実践を行う。また、あらゆる学習活動の中で、自分の考えをまとめ、発表する機会を充実させる。 <p>(2) ア</p> <ul style="list-style-type: none"> 国際的な社会課題への関心と課題解決に向けた意欲を高めるため、国のSGH事業をも活用して高大連携をさらに進める。 大学の留学生との交流機会の拡大や、課題研究における生徒支援をさらに進める。 <p>(2) イ</p> <ul style="list-style-type: none"> 海外の大学や高校との連携をさらに進め、生徒の国際経験を深めるとともに、課題について研究し、成果を発表する。 	<p>(1) ア</p> <ul style="list-style-type: none"> 生徒自己診断「授業で自分の考えをまとめたり、発表する機会がよくある」の肯定的評価が78%以上(29年度実績76.0%)。 <p>(2) ア、イ</p> <ul style="list-style-type: none"> 生徒自己診断「国際理解や世界情勢について学ぶ機会がよくある」の肯定的評価が73%以上(29年度実績69.9%)。 生徒自己診断「本校で海外からの高校生との交流会、学内留学、海外研修、留学生とのディスカッション等、英語を使って海外の人と交流したり学んだりする機会に参加したことがある」の肯定的評価が63%以上(29年度実績61.0%)。 生徒自己診断「国際的な社会課題や政治の動きに関心がある」の肯定的評価が70%以上(29年度実績66.0%)。 	

<p style="text-align: center;">4 【課題研究】</p>	<p>(1) 校内研修の活性化を通じた教職員の力量形成</p> <p>(2) 「知」の継承・発展 ア 「経験知」の継承</p> <p>イ 「経験知」の活用と喫緊の課題解決 ①北野生「育成スタンダード」(仮称)策定にむけた展望</p> <p>②校務運営委員会、校内(GLHS)PT・WTの活動</p> <p>(3) 部活動休養日の有効活用</p> <p>(4) 学習環境のさらなる充実 ア 指導部、保健体育部の働きかけ</p> <p>イ 予算の効果的執行等</p>	<p>(1)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1 (1) ア・イ再掲 ・初任期教員(1～概ね3年目の教員)に対する力量形成支援を管理職、首席がチームで行う。 ・教育Cのリーダー研修、10年経験者研修、アドバンスセミナー等に参加する教員が研修成果の校内還元を行う。 <p>(2) ア</p> <ul style="list-style-type: none"> ・蓄積された「経験知」の次世代継承に向け、今年度は、 ①各分掌、委員会業務の円滑な推進 ②「指導と評価の年間計画」の実行に取り組む。 <p>(2) イ</p> <ul style="list-style-type: none"> ①「育成スタンダード」(仮称)の策定に向け、まずは、 ・教務部、進路部がイニシアティブをとって、高・大・選抜の一体的改革および学習指導要領改訂について教職員に提要し、 ・これからの北野生に身に付けさせたい学力と、そのために必要なカリキュラムについて議論を深める。 <p>②校務運営委員会、校内PT、WTにおいては、以下の業務に特に意を用いる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「学びやすく、働きやすい」年間行事計画について考える。 ・学校教育自己診断、生活アンケート等进行分析し、その結果から、具体的なアクションプランを提案する。 ・IR (Institutional Research) の考え方を入れ、オール文理となった本校の今後の広報(魅力発信)について具体案を提示する。 <p>(3)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・部活動休養日の活用状況を部活ごとに検証し、学習、アウトリーチ活動の両面で可能な部分から実行に移す。 <p>(4) ア</p> <ul style="list-style-type: none"> ・指導部と保健体育部が中心となって生徒に働きかけを行い、生徒の主体的な実践を通してみなが清々しく過ごせる学習環境の創出・充実に取り組む。 <p><指導部>望ましい生活習慣、生活規範の確立に向けた生徒への継続的な啓発活動、いじめ防止、情報リテラシーの育成</p> <p><保健体育部>校内美化等の環境整備に向けた生徒保健委員会等への活動支援、防災教育</p> <p>(4) イ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「授業第一主義」支える予算の効果的執行 ・教材機器・設備の更新、プール、部室棟、トイレ等生活環境の改善に向けた中期的検討 	<p>(1)</p> <p><取組指標></p> <ul style="list-style-type: none"> ・初任期教員に対する力量形成支援のプログラムを年間5回程度計画的に行う。 ・教育C研修参加教員による成果発表を職員会議、学校掲示板等で行う。 ・以上の取組の成果と課題を踏まえて、次年度の取組方針を定める。 <p><成果指標></p> <ul style="list-style-type: none"> ・初任期プログラムへの参加、教育C研修への参加と校内発表が有意義なものであったかどうかを質問紙調査等により把握する(肯定的評価90%を目安とする)。 <p>(2) ア</p> <p><取組指標></p> <ul style="list-style-type: none"> ①年度当初に新旧担当の引継ぎをスムーズに行い、以降は、新担当がPDCAと次年度の引き継ぎを意識しながら業務を進めること。 ②各教科で議論して作成した「指導と評価の年間計画」を引き続き実行し、観点別による学習評価を通じて、さらなる改善、深化を図ること。 <p>(2) イ</p> <p><取組指標></p> <ul style="list-style-type: none"> ①-1 教務部・進路部合同会議(各代表2～3名)を前後期各1回行い、「たすき掛け」で互いの守備範囲を共有すること。 ①-2 学習指導要領の改訂をテーマとした教職員研修を1回設定する。 ①-3 新たに導入する英語学力調査の結果について分析し、今後の方向性を考察する。 <p><取組指標></p> <ul style="list-style-type: none"> ②-1 年間行事計画の今年度からの変更点について、「学びやすく、働きやすい」変更であったかを検証する。 ②-2 WT会議を計画的に行い、校内(GLHS)PTにその成果(アクションプラン等)を提案する。 <p><成果指標></p> <ul style="list-style-type: none"> ・WTの活動が有意義なものであったかどうかを質問紙調査等により把握する(肯定的評価90%を目安とする)。 <p>(3)</p> <p><取組指標></p> <ul style="list-style-type: none"> ・年度末に部活動休養日の定着度及び活用の状況を部活ごとに取りまとめる。 <p><成果指標></p> <ul style="list-style-type: none"> ・制度の定着100%、学習面での取組開始100%、アウトリーチ活動の取組開始50% <p>(4)</p> <p><取組指標></p> <ul style="list-style-type: none"> ・啓発活動や委員会への活動支援が現に生徒に自主自律の精神を涵養し、生徒の望ましい主体的行動を促しているかどうかを検証する方策を具体的に講じること。(具体的な指標;挨拶、時間厳守、規律・ルールの遵守(授業規律、服装、携帯電話の使用等)、モラル・マナーの向上(登下校のマナー、公の場での行動のあり方、校内美化・緑化、清掃の状況等) *世の中の規範、モラル、マナーがそのまま北野高校の「ルール」となる。 *その意味や社会的意義を理解したうえで自律的・主体的に行動する。 *学校の品格は自分たちで築き自分たちで守るもの。 <p><取組指標></p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校会計事務の適正化を踏まえ、教員と事務職員が、単なる分業ではなく、それぞれの専門性を生かしつつ、必要な情報を収集共有し互いに知恵を寄せて、よりよい教育活動に向けた創造的提案を行うこと。さらには、具体的な改善事例を一つ以上あげること。 	
---	---	--	--	--